

鹿児島県

[編集・発行] 鹿児島県奄美パーク  
鹿児島県奄美市笠利町節田1834  
TEL / 0997-55-2333  
FAX / 0997-55-2612  
<http://www.amamipark.com/>

vol.13  
2009.10

# 奄美パークだより

- ◆皆既日食
- ◆夜ネヤ、島ンチュ、リスペクチュッ!!
- ◆お知らせ
- ◆奄美の郷 企画事業
- ◆田中一村記念美術館 企画事業
- ◆奄美パーク応援隊

\*写真:タンキヨの滝(奄美市住用町)

## 皆既日食

平成21年7月22日(水)



皆さんは皆既日食をどちらでご覧になりましたか？

奄美パークでは薄い雲ごしにかけ始めの太陽が観測できました。

残念ながら皆既になる前から雲が厚くなり、ダイヤモンドリングやコロナなどの観測はできませんでしたが、周囲の鳥のざわめきやあたりがどんどん暗くなっていくなど不思議な雰囲気が体験できました。

奄美パークには早朝から人が集まり、TV局やあまみエフエムの中継も行われ大勢の人で賑わいました。日食ははっきりとみえませんでしたが、いい思い出になりました。



## 夜ネヤ、島ンチュ、リスペクチュッ!!

平成21年7月18日(土)19日(日)



島出身のアーティストを中心に月と太陽と奄美の出逢いを記念して開催された、奄美の人と文化の一大コンサートイベント「夜ネヤ、島ンチュ、リスペクチュッ!!」が2009皆既日食奄美市実行委員会主催で奄美パーク多目的広場で盛大に開催されました。



# お 知 ら せ

## 出逢いの広場

この広場は、シンボルツリーのガジュマルの大木をはじめとする奄美を代表する樹木の下で、多くの人が出会い、集う緑の空間として整備されました。

なお、植栽に当たっては、奄美群島14市町村から、それぞれを代表する樹木をご提供いただきました。

天気の良い日にお弁当を持って出かけてみませんか？



## 遊具無料貸出

奄美パークでは、グラウンドゴルフセット、バドミントン、サッカーボール等の無料貸出をしています。

職場や友達の交流の場としてグラウンドゴルフ大会などレクリエーションの用具としてご活用ください。



## “奄美ツリー” 点灯式

平成20年12月1日(月) 奄美の郷エントランス

奄美の郷内に設置した地元産琉球松で作られた高さ約4メートルの巨大クリスマツリー「奄美ツリー」の点灯式を行いました。

点灯式には、地元の奄美市立節田保育所の園児たちを招待し、事前に作成した「サンタさんへのお願い」を書いたカードを「奄美ツリー」に飾ってもらい、その後、園児たちのカウントダウンを合図に点灯しました。

点灯後、園児たちによる歌や踊り、サンタさんとの交流会を行い、来園者も大いに、楽しんでいました。



## フュウンメ（冬折目）コンサート

平成20年12月7日(日) イベント広場

オープニングは出演者の紹介も兼ねて総勢60名のあさばな節で始まり、母と子、祖母と孫、夫婦の共演や初の試みとしての「群れ唄」など昔の唄遊びの雰囲気を醸し出し、フィナーレは奄美高校の郷土芸能部「太陽の子」による六調太鼓で賑やかに来園者を楽しませました。



## 奄美パーク クリスマスコンサート

平成20年12月20日(土) イベント広場

マリンバ奏者の草刈とも子さんとピアノ奏者の種村久美子さんによるクリスマスコンサートを開催しました。

クラシックや日本のうた、クリスマソングメドレーまで演奏され、来場された方々はその魅力に酔いしれ、また大いに楽しんでいました。

そして、宮崎緑園長のマリンバ演奏もあり、草刈さんからご指導いただいたというその腕前を披露しました。



## けんむんクイズラリー

平成20年12月23日(火)  
奄美の郷及び田中一村記念美術館

奄美パークこどもクリスマス会に併せて「けんむんクイズラリー」を行いました。けんむんが出題するボードを奄美パーク内に12カ所置き、地図を参考にけんむんを探してクイズに答えてもらいました。こどもクリスマス会と同時開催ということもあり、大勢の参加者で賑わいました。



## 奄美パークこどもクリスマス会

平成20年12月23日(火) イベント広場

クリスマスを前に多くの子供たちが楽しめるよう  
に「奄美パークこどもクリスマス会」を開催しました。  
「ハードパンチャーしんのすけ」によるジャグリング  
ショー、「あまくろ」の奄美自然教室、あそびう

たサークル「ぱすてる」によるかかわり遊びやクリスマス大抽選会などのプログラムで会場は盛り上がり、  
子供も大人も歓喜の声を上げ楽しんでいました。



## 初春唄あしひ

平成21年1月3日(土) イベント広場

正月休みを利用して奄美を訪れる観光客や帰省客に、郷土芸能を中心に構成したイベントで、奄美の文化に触れていただこうと開催しました。

今回は、シマ唄・三味線と唄の合奏・琉球舞踊、そして地元節田集落の節田マンカイをシマ唄の大御所である坪山豊さんの企画で構成しました。

シマ唄には、坪山さんをはじめとする唄者の方々に加え、三味線教室の生徒も加わり、伝統の唄と音を楽しみました。また、飛び入りで坪山さんのお孫さんが「旅や浜宿り」を唄い、息子さんがチヂンを叩いて参加し、親子三代の初饗宴が実現しました。

琉球舞踊には柳清会が出演し、本流・アシビナー・タンチャメ・エイサーの各グループが艶やかにステージを彩りました。



最後には、昨年4月に鹿児島県指定無形民俗文化財に指定された「節田マンカイ保存会」の方々が、通常は旧正月に披露される手踊りの唄掛けを披露しました。

会場には地元をはじめ帰省客が多く来場し、正月3日目を大いに楽しみました。

## 新春寄席

平成21年1月10日(土) イベント広場

新年に際し、普段、生の落語に触れる機会が少ない奄美の人々に、落語を楽しみながら、奄美パークを身近に感じてもらい、新春を笑いではじめようと開催しました。

冒頭では、協賛企業であり、故郷との懸け橋として中部奄美会の会長をされているミクニ機工株式会社の寺師会長から「初笑いで奄美を明るくしたい。」と、故郷に寄せる思いがあふれた挨拶がありました。

前座には鹿児島は鹿屋市出身の三遊亭小笑さんが登場し、「やかん」で座をあたためました。

仲入りの後には、鳴り物で春風亭美由紀さんが登



場し俗曲を披露。小唄や都々逸に舞も加えて、さらに座を笑いであたためました。

真打として10年の実績をもつメインの桂歌助さんはこの日2度出演し、「代り目」「竹の水仙」を披露し、その実績に裏づけされた巧みな話術に、会場は笑いの渦に包まれました。

## 春まつり～シマジマだより～

平成21年2月15日(日) イベント広場

奄美は本土よりも一足先に春が訪れることから、春間近なこの時期に「シマジマだより」として、喜界島から荒木棒踊り、瀬戸内町からシマ唄、奄美市名瀬から新民謡、徳之島からは闘牛太鼓、また、沖永良部島から瀬利覇獅子舞など各島々の伝統芸能やシマ唄などで大いに盛り上がり、奄美の魅力を島内外の方々に認識していただきました。



## 春まつり～サンガツサンチ～

平成21年3月1日(日) イベント広場

春まつり第2弾として、桃の節句にちなんで女性だけの出演者によるイベントを開催しました。

喜界島の川畑さおりさんと前泊佑香さんにシマ唄を披露していただき、山元孝子琉舞道場による琉球舞踊、ロイヤルフラ仲山教室のフラダンス、隆柳流福沢教室の方々による日本舞踊など艶やかなイベントとなり来場者の方々に大いに楽しんでいただきました。



## 奄美の郷ライブステージ

平成21年3月14日(土) イベント広場

「あらしゃげて いっちゃりょんかい」と題して、「渚音楽祭 東京inお台場」など町内外を問わず伝統芸能で活動している「いっちゃりょん会」（橋口勝会長）による企画・出演で開催しました。タイトルは「盛り上げて良いでしょうか？」という意味で、「諸先輩方がいる中で、私達のような若い者も踊らせていただけて良いでしょうか？」と謙虚な気持ちで踊り、盛り上げようというこの会に加え、メンバーの中で他でも活動している「奄美 道の島太鼓」による和太鼓や「勘大社中」による日舞、そして西アフリカの太鼓「ジャンベ」や「シマ唄」、「六調太鼓自慢」も披露されました。

八月踊りでは、若さ溢れる声の張りとそのリズムに観客は見入っていました。



また、六調太鼓自慢ではその腕っぷしに自信のある老若男女8名が出演し、個性溢れる太鼓のリズムを唄・三味線の音をバックに披露すると、観客はいてもたってもいられずに踊りだし、そのタイトルのとおり盛況なイベントとなりました。

## 奄美の郷ライブステージ

平成21年3月15日(日) イベント広場

昔ながらの唄遊び（うたあしひ）を再現させようと会を結成し、今年で9年目となる「みちびき会」（恵義哉会長）による企画・出演で開催しました。

毎年のように会の本拠地近くにある輪内公園で「唄あしひの夕べ」を、司会進行・音響など全て自分達で作り上げている会だけあって、観客を巻き込むその話術は素晴らしい、誰もが手拍子をしながら笑顔でシマ唄を聴いていました。

シマ唄のイベントでは「朝花節」などで始まるのが一般的ですが、常識にとらわれない構成で企画されたプログラムは「奄美ちんだら節」で始まりました。



その後モリズム感の良い曲目と司会やメンバーの話に観客は酔いしれ、1時間という短時間ではありましたが、素晴らしい盛り上がりを見せました。

## けんむんクイズラリー

平成21年5月3日(日) 奄美の郷及び田中一村記念美術館

けんむんが出題するボードを奄美パーク内に12カ所置き、地図を参考にけんむんを探してクイズに答えてもらいました。

ゴールデンウィークということもあり大勢の参加者で賑わいました。小中学生を対象として行いましたが、家族で楽しむ姿も見られました。

## あまみっ子フェスタ

平成21年5月4日(月) 多目的広場

アマンディー太鼓（奄美市立節田小学校）のオープニングで始まり、舞丸（マイマル）さんによる大道芸「見世物小屋」では、会場の親子達がその芸をおっかなびっくりで見て、大いに大道芸を楽しんでいました。

その後、手作りで楽しむ昔あしひ（奄美手熟師会）、広場で遊ぼう（奄美市レクリエーション協会）などで親子連れが竹とんぼ作りやバルーンアート作りを体験しました。



最後に、あそびうたサークル「ぱすてる」による、つながりあそび・うたでは会場の子供達がゲームに参加し大いに楽しんでいました。

## わらべシマ唄大会

平成21年5月5日(火) イベント広場

奄美の将来を担う子供（あまみっ子）たちが、シマ唄を通じて奄美固有の伝統文化への理解を深めるとともに技法を学び、シマ唄文化を広く後世に伝える目的で開催しました。

オープニングには、審査対象外ですが、1名の保育園児が華を沿えてくれました。

小学校低学年の部に11名、小学校高学年の部に14名、中学生の部に7名が参加し、それぞれ優勝を目指し、師から学んでいるシマ唄を熱唱しました。



表彰式では、部門ごとの優勝・準優勝・三位の受賞者に、宮崎園長から賞状と記念品が授与され、最後に審査員やゲストと一緒に記念写真を撮影しました。



## 「奄美の郷ライブステージ5月」（でい・まーじんま第4弾）

### 平成21年5月17日(日) イベント広場

今年で4回目となる「島んちゅ会」による（でい・まーじんま）を開催しました。

シマ唄、踊り、三味線合奏、エレクトーン、ハーモニカとのコラボレーション、天草・六調など盛りだくさんの催し物で来場者を楽しませていました。

また、サブタイトルにもなっている（でい・まーじんま）ということで会場のみなさんと出演者が一緒に歌って、踊って楽しんでいました。



## 「ネリヤカナヤフェスタ」オープニングイベント

### 平成21年6月21日(日) イベント広場

勇壮で迫力のある道の島太鼓のオープニングで始まり、可愛く華やかなフラカオスタジオによる常夏の海を連想させるフラダンス、さざ波バンド（奄美市立伊津部小学校）による軽やかな踊りや力強い演奏で会場は盛り上がったほか、唄者、前山真吾さんと吉原まりかさんによるシマ唄ライブショーで来場者を楽しませました。

また、徳之島町の加川徹氏の「海の風景展」や奄美の貝細工の展示、味の郷「かさり」による加工品の販売なども実施してイベントを盛り上げました。



## 「ネリヤカナヤフェスタ」親子工作教室（ヤコウガイでアクセサリーを作ろう）

### 平成21年6月28日(日) レクチャールーム

笠利町笠利「島ぬむん」代表植田康夫氏を講師に親子工作教室「ヤコウガイでアクセサリーを作ろう」を開催しました。参加者は親子に限らず祖父母と孫、観光客の夫婦など様々で、自分達でヤコウガイを何種類かの紙やすりで磨いて、首飾りやストラップに加工し、自分で作った世界にたった一つだけの美しく仕上がったアクセサリーを満足げに眺めしていました。





## 第16回嶺美会創作押し絵展

平成20年12月1日(月)～平成20年12月15日(月)

喜界町の押し絵愛好者らでつくる嶺美会（吉嶺美智子代表）による第16回嶺美会創作押し絵展を開催しました。「花」をテーマに同会員18名による計74点の作品が展示された他、アカショウビンやユリの花、東海道五十三次を描いた衝立、押し花を材料に般若心経を描いた屏風などが展示されました。期間中は、女性の方を中心にたくさんの来館者で賑いました。



## 日伯交流100年記念イベント

平成20年12月21日(日) イベント広場

写真・創作・歌などの様々な活動を通してブラジルと日本の歴史を追いながら、双方の素晴らしい文化・精神を伝え、私達が忘れかけている「本当のこころ」に逢いにゆこうという「逢いたくば」プロジェクト〔実行委員長 伊藤 俊洋（財）北里環境科学センター理事〕が開催されました。

このプロジェクトは写真家であるハ木 仁志氏によるブラジル日系人の肖像写真を中心に、展示や講演を行ってきました。今回田中一村記念美術館での企画展「逢いたくば『ブラジル移民百年の肖像』ハ木仁志写真展」のオープニングイベントとして開催しました。

まず、プロジェクトをシンボライズする、ペーパークラフト作家、広井 敏通氏企画による「花風車」による虹の架け橋を、宇検村立田検中学校と奄美市立赤木名中学校の生徒の手によって完成させるセレモニーで幕を開けました。

次に、同プロジェクトの伊藤実行委員長による基調講演[「新しい地球文明」を考える]が行われ、地球上での文明の進化は我々の創造を超えるスピードで進んでいるが、前向きな意味合いの強い「進化」という言葉には悪い面もある。戦争・テロ・環境問題など、ど



れをとっても地球規模で問題は起こっている。この困難な時代背景の中で人間の本来の心のあり方を蘇らせ、全ての国境、民族、宗教、言語の壁を越えて心を開こうと語りました。

次に、生元高男氏によるシマ唄が披露され、続いて同プロジェクトメンバーの映像作家 亀田 南海雄氏による「日本人のブラジル」と題した映像が紹介され、今現在の初期移民の姿と声を届けました。

最後に、テーマを「日本人のブラジル」としてシンポジウムを行い、宮崎園長をコーディネーターに、そしてパネラーに伊藤実行委員長、ハ木仁志氏、亀田南海雄氏を迎え、日本とブラジルの移住から100年という節目の年にあたり、初期移民のほとんどの方が他界するなか、「ブラジル日本移民」の歴史を改めて考える良い機会となりました。



## 「一逢いたくばーブラジル移民百年の肖像」八木仁志写真展

平成20年12月21日(日)から平成21年1月6日(火)

日伯交流100年記念イベントとして、「一逢いたくばーブラジル移民百年の肖像」八木仁志写真展が企画展示室で開催されました。八木氏は、母親がブラジル生まれで、4年前から毎年ブラジルに通い、写真を撮り続けており、奄美から多くの移民があったということで、開催が実現しました。今回は1世から4世まで移民家族の写真60点を展示しました。来館者はブラジルで生活する日系人の表情に見入っていました。



## 「墨は主張するー現在の生き様を主張するー」中場芳舟書道展

平成21年1月11日(日)から平成21年1月27日(火)

奄美大島出身の書家、中場芳舟氏による「墨は主張するー現在の生き様を主張するー」中場芳舟書道展が開催されました。水墨画と書道を融合させた作品を中心に、奄美での思い出をテーマにしたもの、自分自身の心情を題材にした作品など29点が展示されました。

当館初の書道展ということもあり、初日からたくさんの来館者で賑わいました。



## 宮崎鐵太郎氏を偲ぶ会

平成21年2月6日(金)  
田中一村記念美術館特別展示室

宮崎鐵太郎遺作展「奄美焼展」の初日は宮崎氏の三回忌に当たることから、田中一村記念美術館特別展示室において「宮崎鐵太郎氏を偲ぶ会」を開催しました。 傷ぶ会には宮崎氏の家族や親戚、親交のあった関係者などが多数参加し、宮崎氏を偲びました。 まず、生前の宮崎氏が映し出されたビデオを放映し、黙祷、宮崎緑館長によるあいさつのあと、中山清美奄美市文化課長が「我が兄 宮崎鐵太郎」と題して基調講演を行いました。また、宮崎氏に縁のあった人たちが思い出を語り合い、宮崎氏が一村や一村作品に対して思い入れが強かったことなどが語られました。





## 大島高等学校書道部×美術部+県民大学合同作品展

平成21年2月3日(火)～  
平成21年2月17日(火)

大島高校の書道部・美術部、同高の県民大学の受講生による企画展が開催されました。美術部生徒は、F50号のキャンバスに、人物画や心象風景を描いた油彩・版画作品7点、県民大学受講生は人物画16点を展示した。書道部は書写に加え、「扇」「動」と力強く描いた作品25点を展示しました。

来館者の方々は、高校生のレベルの高さに感激した様子でした。



## 創作体験教室人物画講座

平成21年2月21日(土)～  
平成21年2月22日(日)

県美展審査員・二科会会員である西健吉氏を講師に招き、人物画講座を2日間にわたり開催しました。まず、講師から人物の捉え方等の説明を受けた後、前半はクロッキーをし、後半は油絵・水彩で制作しました。参加者は西氏の指導の下、真剣にキャンバスに向かって作品を上げていきました。

最後には講評会が行われ、各々の作品へのアドバイスをいただきました。





## 白浜幸子押花展

平成21年2月25日(水)～  
平成21年3月11日(水)

笠利町出身で鹿児島市在住の白浜氏は2002年から押し花アートを始め、翌年インストラクターの資格を取得し、それ以降、押し花を使っての様々な表現に挑み、今回は花びらや樹皮などを使った風景画など75点を展示しました。また、奄美をモチーフにした作品も展示され、「ルリカケスやアヤマル岬の風景画などに感動した。」と喜ばれる来館者もいました。



## 重村三雄ギャラリートーク

平成21年3月15日(日)  
田中一村記念美術館特別展示室回廊

昨年当館に寄贈された「いぶし銀の世界」の前で、重村三雄ギャラリートークを行いました。

「いぶし銀の世界」は重村氏の代表作であり、1976年ジャパンアートフィスティバルで大賞を受賞し、その後、東京・銀座和光のショーウィンドーに飾られ話題を呼んだ作品です。

トークは宮崎館長との対話形式で行われ「いぶし銀の世界」が制作されるまでの過程や作品に対する思い入れなどが語られました。





## 生誕100年記念「田中一村の襖絵・屏風絵展」開催記念講演

平成21年3月22日(日) 奄美の郷・レクチャールーム

「田中一村の襖絵・屏風絵展」の開催初日、千葉市美術館館長で学習院大学教授の小林忠氏が「田中一村の魅力」と題して講演を行いました。

小林氏は、1984年NHK日曜美術館「黒潮の画譜～異端の画家・田中一村」に出演しコメントをした方で、講演では一村の千葉時代・奄美時代の作品をスクリーンを使って解説しました。また、一村を「日本のゴッホ」と表現し、一村人気の沸騰要因などを話しました。講演には、一村の親族や寄託者、研究者などが参加され、質疑応答などもあり、聴講者らと親睦を図りました。



## 宮崎鐵太郎遺作展「奄美焼展」

平成21年2月6日(金)～平成21年3月15日(日)

田中一村と親交があり、独学で奄美焼を確立した陶芸家・宮崎鐵太郎氏の遺作展「奄美焼展」を開催しました。3回忌を迎えたこの年に、完成したばかりの特別展示室において宮崎氏の陶芸作品を展示し、その偉業を称え、宮崎氏との関わりを通して一村についても振り返る機会にしたいという目的で行いました。

今回は、民芸品として人気のある「ほしころ瓶」のほか、徳利、つぼ、椀など約50点の作品を展示しました。

短い期間に試行錯誤を重ね、多くの種類の作品を残されたことに驚かれた人が多かった様です。



## 宇検村やけうちむら 暮らしの意匠展

平成21年3月15日(日)～平成21年4月5日(日)

短歌とふるさとの写真の融合で、忘れ去られている郷土の文化と歴史を紹介しようと、宇検村・やけうち短歌会の「くらしの意匠展」が田中一村記念美術館企画展示室で開催されました。やけうち短歌会は2006年7月に結成、会員は児童生徒から一般まで60人。週に二度、作品を発表する場を設けるなど、精力的に活

動しています。同村の久志小、中の児童生徒13人にによる日常生活を通して詠んだ作品は、心和むものなど力作ぞろいでした。写真展では、宇検村教育委員会の協力のもと、宇検村の豊かな自然風景や、ノロ祭祀、豊年祭など民俗文化を展示し、短歌と写真がコラボする異色の展示会が大勢の観客を魅了しました。



## 塩澤文男 絵本原画展 「海神の姫 とうとうがなし」

平成21年4月19日(日)～平成21年5月17日(日)

東京在住の塩澤文男氏は、テレビで田中一村を知り奄美を訪れ、感じたことを絵にしてきました。

作品には、奄美の植物や生き物が力強いタッチで描かれ、47点の作品が多くの観客を魅了しました。

「海神の姫」では、自身の加計呂麻島での海蛇と

の出会いをモチーフとした作品が展示されました。

また、7月の皆既日食をテーマとした作品「とうとうがなし」は、初めて人前に展示される作品ということもあり、訪れた人々が熱心に鑑賞していました。

## 興克樹自然写真展 「煌めきの瞬間」

平成21年5月24日(日)～平成21年6月14日(日)

興克樹による自然写真展「煌めきの瞬間」を開催しました。リュウキュウアカショウビンやルリカケス、アカウミガメやサンゴなど、自然の宝庫・奄美ならではの環境に生息する生物を中心に、A1パネル31点の写真を展示し、また、土日の休日には展示室の壁一面をスクリーンにみたて、コブシメの求愛の様

子や野鳥の巣立ちの瞬間などを記録した映像を上映しました。

会場に集まった観客は、今までそばにありながら感じることの無かった自然の魅力をみて、感動した様子でした。特に今回は、家族連れの観覧者が目立ち、会場も大変賑わっていました。

## 大島紬で編んだエイ子の編衣展

平成21年6月21日(日)～  
平成21年7月12日(日)

田中一村記念美術館6月の企画展として、笠利町出身者の森エイ子氏による「大島紬で編んだエイ子の編衣展」を開催しました。展示には、大島紬糸を使ったショール・ドレスを発表し、今までの大島紬糸のイメージを覆すかのような作品が並びました。お客様には、奄美在住の年配の方々が多く見え、感動を与えた様子でした。また、7月4日(土)の森エイ子氏による講演会も多くの方が訪れ、賑わいを見せっていました。



# 奄美パーク 応援隊

奄美パーク応援隊は地域の方々による奄美パークのボランティアセンターです。展示案内ガイド、手熟ガイド、園芸センター、一村センターの4つの分科会に分かれ、それぞれ得意な分野で活動しています。



今回は手熟ガイドを紹介します。手熟ガイドとは島唄や機織りなどの実演をしながら島の文化を紹介するガイドです。



団体のお客様を六調でお見送り。メンバーが揃う日しか出来ませんが、よろこんで頂けるので出来るだけ続けて行きたいです。

現在の手熟ガイドは島唄が中心です。普段は民家の中でおもてなしします。



事前に要望があればステージでミニライブを行ったりします。出来るだけ要望にお応えするために1ヶ月位前に連絡を下さい。



## 奄美パーク応援隊の声 結い(助け合い)の精神で

龍郷町 平 久美

「奄美パーク応援隊に入ってみない?」と誘いを受けて、早4年になります。私は、手熟ガイドとして島唄や三味線で奄美を紹介し、夫は園芸センターとして2年間ハイビスカスの植栽をしたりしました。今では美しい花を咲かせ皆様に感謝です。そして、田中一村記念美術館の池の清掃に夫婦で参加。午前中いっぱいかかりましたが、皆で汗して頑張ったお陰で、池にきれいな水が張られました。あの、すがすがしい感動は今でも忘れる事は出来ません。

実は、私が応援隊を受けたのには訳があります。それは、私のグループの「島んちゅ会・でい・まーじんま!!」というライブステージを毎年させて頂き、そのご恩返しの意味もあります。ただ施設を使わせてもらうだけでは申し訳ないので、結い(助け合い)の精神です。また、奄美パークの開園当初から(私にも何か役に立てる事はないかしら?役に立ちたい!!)との強い思いもあり、願いが叶って喜んで仕事をしております。

それから、お客様の前で唄う際には、島唄の意味、その唄に込められた想いを説明する様にしています。そうする事でなお一層聴いていて、心に染みる度合が増し、感動して頂けるようです。また、民家で唄っていると「お父さんの事を思い出してなつかしい。」と涙ぐまれる方もおられます。そんな時には私の方も感激してしまって、応援隊をやっていてよかったと、つくづく感じます。

また、ボランティアガイドといえば、私には、遠い異国の方で頑張っていた方が思い出されます。鹿児島の川内市から韓国へ嫁ぎ、奄美から文化交流で訪れた私たちを親切にガイドして下さいました。私も見習って、これからも応援隊を頑張ってやっていくつもりです。自分自身も研鑽を重ねつつ、島内外から一人でも多く来園して頂けるよう努力します。

# 鹿児島県奄美パークイベント案内

(平成21年9月～22年3月)

## 一 奄美の郷イベント広場

奄美の郷ライブステージ	11月29日(日)
フュウンメコンサート	12月13日(日)
初春唄あしひ	1月3日(日)
春まつり～シマジマだより～	2月14日(日)
春まつり～サンガツサンチ～	3月7日(日)
奄美の郷ライブステージ	3月14日(日)

## 一 田中一村記念美術館

「シュールIN奄美」前村卓巨洋画展	8月23日(日)～9月13日(日)
「糸の綾 part II」平井泰輔写真展	9月20日(日)～10月11日(日)
創作体験教室(風景画講座)	10月11日(日)
第5回「新緑～紅葉スケッチコンクール作品展」	10月25日(日)～11月19日(日)
「新緑～紅葉スケッチコンクール」「奄美を描く美術展」表彰式	11月3日(火)
芸術文化講演会	11月3日(火)
「第8回奄美を描く美術展」	11月3日(火)～11月29日(日)
堀晃個展「アオイ月が満チルマデ」	12月13日(日)～1月11日(日)
常設展示替	12月17日(木)
親子美術館探検	1月3日(日)
島のリズム「祈りの布」展	1月17日(日)～2月7日(日)
美術公演	2月7日(日)
大島高等学校「書道部×美術部+県民大学合同作品展」	2月14日(日)～3月7日(日)
創作体験教室(人物画講座)	3月13日(土)14日(日)
常設展示替	3月18日(木)
「today's Art Textile in Amami vol.2」	3月20日(土)～4月11日(日)

# 奄美パーク

鹿児島県

〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834

■奄美パークホームページ <http://www.amamipark.com/>

■奄美の郷／TEL.0997-55-2333 FAX.0997-55-2612

■田中一村記念美術館/TEL.0997-55-2635 FAX.0997-55-2613

■開園時間／9:00～18:00(7・8月は9:00～19:00)  
入園は、閉園時間の30分前までです。

■休園日／毎月第1及び第3の水曜日(祝日の場合は翌日)  
<4月29日～5月5日、7月21日～8月31日、年末年始は開園>

■施設観覧料／奄美の郷、田中一村記念美術館共通観覧料  
大人…600円、高校・大学生…400円、  
小・中学生…300円、幼児(小学生未満)…無料

